

|||||
原 著
|||||

基礎看護学実習Ⅱが看護学生の思いやり行動と 看護職アイデンティティに及ぼす影響

Effects of Basic Nursing Practice II on Sympathetic Attitudes and Professional Identity of Nursing Students

遠藤 恭子 米澤 弘恵 石綿 啓子 佐藤 佳子 鈴木 明美
Kyoko Endo Hiroe Yonezawa Keiko Ishiwata Yoshiko Satoh Akemi Suzuki

獨協医科大学看護学部
Dokkyo Medical University School of Nursing

要 旨 本研究は、基礎看護学実習Ⅱが看護学生の思いやり行動と職業的アイデンティティに及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。

A大学看護学部2年生96人を対象に、基礎看護学実習Ⅱ前後に自記式質問紙調査を行った。実習前62人（回収率64.6%）、実習後71人（74.7%）のうち、62人（有効回答率実習前100%、実習後87.3%）を分析対象とした。調査には、尾原による思いやり行動評価尺度と藤井らによる職業的アイデンティティ尺度を用いた。分析には統計解析ソフトSPSS Ver.19.for Win.を用い、Wilcoxonの符号付順位和検定とSpearmanの順位相関係数をみた。

結果は、男性1人（1.6%）、女性61人（98.4%）で、平均年齢 19.9 ± 0.3 （SD）歳であった。看護師になることへの迷いでは、ある者が実習前33人（53.3%）、実習後33人（53.2%）で変化はみられなかった。将来の希望職種では、看護師が実習前53人（65.5%）、実習後51人（56.8%）で最も多かった。思いやり行動評価については、最も得点が高かったのは＜相手の態度表情を読み取る＞実習前平均 3.8 ± 0.7 点、実習後平均 3.8 ± 0.7 点であり、最も得点が低かったのは＜相手の気持ちを察する＞実習前平均 3.5 ± 0.5 点、実習後平均 3.4 ± 0.7 点であった。実習前後では、思いやり行動の得点に違いがなく有意差もみられなかった。職業的アイデンティティについては、実習前後ともに最も得点が高かったのは＜社会への貢献の志向＞で、実習前平均 5.2 ± 0.9 点、実習後平均 4.8 ± 1.4 点であり、有意（ $p < .05$ ）に実習後が下がっていた。最も得点が低かったのは、実習前＜看護職として必要とされることへの自負＞平均 4.3 ± 1.1 点で、実習後＜看護職の選択と成長への自信＞と＜看護職として必要とされることへの自負＞平均 4.3 ± 1.3 点であった。思いやり行動評価総得点と職業的アイデンティティ総得点では、両者に正の相関（実習前 $r = .62$ 、実習後 $r = .53$ 、 $p < .01$ ）がみられた。

以上のことから、看護学生の思いやり行動は、2週間の基礎看護学実習期間では変化がみられなかったが、思いやり行動は職業的アイデンティティに影響を及ぼしており、相手の立場に立ち考え理解しようとする姿勢が、職業的アイデンティティを高めることが推察された。

Abstract

The purpose of this research was to clarify the effect of basic nursing practice II on the sympathetic attitudes and professional identity of nursing students. A self-report questionnaire

survey was conducted on 96 students at A Medical University School of Nursing before and after basic nursing training II. I assumed 62 people (effective answer before training 100%, after training 87.3%) among 62 people before training (response rate 64.6%) and 71 people after training (74.7%). The sympathetic attitude scale of Ohara and professional identity scale of Fujii were used. The statistical analysis software SPSS Ver.19.for Win. was employed for analysis along with the rank sum test of Wilcoxon and correlation coefficient of Pearson.

As a result, there were 1 male (1.6%) and 61 women (98.4%) subjects, and the average age was 19.9 ± 0.3 (SD). 26 (41.9%) people hesitated about becoming a nurse before training and 25 people (40.3%) after it. The type of employment most hoped for was nursing before training among 51 people (56.8%) and after training among 53 people (65.5%). "Being considerate of others," which scored highest, was 3.8 ± 0.7 before training and 3.8 ± 0.7 points after training. This meant "being Sensitive to the other's feelings." The lowest score training was 3.4 ± 0.7 points and after training 3.5 ± 0.5 points, with regard to "respect for the other's feelings." No significant difference was noted before and after training in considerate behavior. The highest scores were for professional identity before (5.2 ± 0.9) and after training (4.8 ± 1.4), in terms of "contributing to society." It was "self-confidence about what was needed as a nurse" which scored lowest before training (4.3 ± 1.1), "the choice of the nurse and confidence in growth" was 4.3 ± 1.3 points, and "self-confidence in what was needed as a nurse" after training. The "intention to contribute to society" ($p < .05$) was significantly low after training.

An equilateral correlation was found between sympathetic attitudes and professional identity (before training $r=0.62$, after training $r=0.53, p < .01$). From the foregoing, sympathetic attitudes of nursing students showed no change during the two-week basic nursing training II. However, their sympathetic attitudes influenced their professional identity, and their understanding of other persons could be taken to mean a heightened sense of professional identity.

キーワード：思いやり行動，看護職アイデンティティ，看護学生，基礎看護学実習Ⅱ

Keywords：Sympathetic attitudes, Professional identity, Nursing students, Basic nursing practice II

I はじめに

基礎看護学実習Ⅱは、学生が初めて患者を受け持つ実習であり、実習中に直に患者の身体面、心理面、社会面に触れ、学内での学習とは違う衝撃を受ける実習でもある。従って、2週間の実習期間ではあるが、患者との関係について深く考えたり、自分の看護観を再考したりと、学びの多い実習であると考えられる。

看護は人間関係を基盤として成り立っており、看護ケアの質には、患者と看護師との関係が影響するといわれている。田島¹⁾は、良好な人間関係を形成することは、患者との信頼関係を築くうえで重要なことであり、そのためには、看護専門職者としての知識・技術・態度をもつ

て患者に関わる必要があると述べている。看護専門職者としての態度のひとつに思いやりや気遣いがある²⁾といわれているが、患者は看護師に「患者の身になって考え実行してほしい」³⁾や「いちいち言わなくても気づいて実行してくれる」⁴⁾など、思いやりや気遣いを望んでいるとの報告がある。さらに、教務主任が看護師に求める態度として、思いやりを上位にあげている⁵⁾との報告があることから、思いやり行動は看護師にとって必要な態度であることが考えられる。

思いやりは、広辞苑⁶⁾によると「自分よりも人の身を思うこと」であるという。また、菊池⁷⁾によれば思いやりは、対人関係を基盤として

幼児期から周囲の人との関わりの中で身につけていくものであるという。したがって思いやりは、日々の生活体験を通して他者との交流の中で成長発達するものであると考える。しかし、地域社会との交流や少子高齢化の影響による世代間交流の減少などにより、思いやりを育む機会が減少しているのではないかと考える。看護学生の思いやり行動については、他の一般大学生よりも低い⁸⁾との報告があるが、看護師を志す学生は、患者のニーズに気づくためにも、より思いやりを育む必要があるのではないかと考える。また、入学直後の看護学生の看護師イメージにおいて、第一位が思いやりである⁹⁾との報告があることから、思いやりを持つことは、看護職を選択することに影響を及ぼしているのではないかと考える。

また、青年期にあたる看護学生の心理・社会的危機の主題としてアイデンティティがある¹⁰⁾。青年期の発達課題として、情緒的・経済的な独立や社会的役割を学ぶことがある¹¹⁾ことから、職業がアイデンティティの重要な側面になることが考えられる。

看護師の職業的アイデンティティとは、看護師を自分の職業とする主観的な感覚であり、看護師が看護の質を高めるために必要なものとされている¹²⁾。看護学生においては、看護職を志したその時から看護職アイデンティティを形成し始め、職業的準備を伴うコースである看護大学在学中に、それを高めていくことが期待されている。職業的アイデンティティに関する先行研究では、看護師の役割モデルの存在が職業的アイデンティティに影響を及ぼす¹³⁾ことや、入学時から卒業時にかけて変化があること¹⁴⁾、臨床実習が影響を及ぼすこと¹⁵⁾が報告されている。しかし、看護師に必要な態度であると考えられる思いやり行動との関連について報告しているものはみあたらない。そこで、実習前後における看護学生の思いやり行動と職業的アイデンティティの変化、および関連について検討した。

Ⅱ 用語の定義

思いやり：相手の立場に立って、相手の役に立ちたいと思うこちら側に生ずる感情¹⁶⁾。

思いやり行動：相手のためになる自発的な行動で、その実行により損失や犠牲が伴っても他からの報酬は一切期待しない行動とする¹⁷⁾。

職業的アイデンティティ：職業規範や価値体系との相互作用の中で自覚される主観的な感覚とする¹⁸⁾。

Ⅲ 研究方法

1. 研究対象者

対象者は、基礎看護学実習Ⅱ前後のA大学看護学部2年生96人であった。実習前の回答者は62人（回収率64.6%）、実習後の回答者は71人（回収率74.7%）で、実習前後で対象者を対比させて、回答に記入漏れのない62人を対象とした。

2. 調査期間

平成22年2月。

3. 調査内容

1) 属性

性別、年齢、入学動機、看護職への迷い、将来の希望職種、志望資格、大学院進学希望とした。

2) 思いやり行動

看護学生の思いやり行動は、尾原¹⁹⁾が作成した思いやり行動評価尺度を使用した。この尺度は、〈相手の立場に立つ〉11項目、〈相手の態度・表情を読み取る〉4項目、〈相手の気持ちを察する〉3項目の3因子、計18項目で構成されており、「まったくできない」から「いつもできる」までの5段階評定で1点から5点で順に得点化し、得点が高いほど思いやり行動評価が高いことを示す。因子別の信頼性クロンバックの α 係数は、〈相手の立場に立つ〉0.864、〈相手の態度・表情を読み取る〉0.820、〈相手の気持ちを察する〉0.660である。

3) 職業的アイデンティティ

看護学生の職業的アイデンティティは、藤井ら²⁰⁾による医療職用職業的アイデンティティ尺度を使用した。この尺度は、＜看護職の選択と成長への自信＞5項目、＜看護職観の確立＞5項目、＜看護職として必要とされることへの自負＞5項目、＜社会への貢献の志向＞5項目の4因子、計20項目で構成されており、「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる」までの7段階評定で1点から7点で順に得点化し、得点が高いほど職業的アイデンティティが高いことを示す。

4. 調査方法

基礎看護学実習Ⅱ前後に、自記式質問紙調査を行った。

5. 配布・回収方法

調査票は、基礎看護学実習Ⅱ初日のオリエンテーション直前と、実習最終日の学内でのおまとめ発表終了時に配布し、各自で記入後に回収ボックスに投函してもらった。

6. 分析方法

分析には、統計解析ソフトSPSS Ver.19.for Windowsを用い、記述統計、実習前後の差の検定にはWilcoxonの符号付順位和検定を行った。思いやり行動と職業的アイデンティティとの関連にはSpearmanの順位相関係数をみた。

7. 倫理的配慮

対象者には、書面と口頭にて、調査の趣旨及び調査への参加・協力は自由であり、参加しても途中で中断することは可能であること、調査は無記名で行い成績や評価には関係がないこと、結果はID化し統計学的に処理されるため、個人の特定はされずにプライバシーを遵守し、研究の目的以外には使用しないことを説明した。収集したデータは外部記憶媒体に記録させ、その記憶媒体は鍵をかけて保存した。統計処理を行うコンピューターは、他のコンピューター

と切り離されたものを使い、研究終了後、調査票はシュレッダーで破棄した。また、調査への回答をもって、同意を得たこととした。

IV 結果

調査票の回収数は、実習前62人（回収率64.6%）、実習後71人（74.7%）であり、実習前後で対象者を対比させて、回答に記入漏れのない62人（実習前有効回答率100%、実習後有効回答率87.3%）を分析対象とした。

1. 対象者の背景

対象者の背景について表1に示した。性別では、男性1人（1.6%）、女性61人（98.4%）、平均年齢は19.9 ± 0.3（SD）歳であった。看護学部への入学動機では、家族・親族に看護師がいるが21人（33.9%）で最も多く、次いで家族・親族の入院経験が16人（25.8%）であった。

実習前では、看護師になることへの迷いは、ややあるが26人（41.9%）で最も多く、次いであまりないが18人（29.0%）、多いにあるが7人（11.3%）で、約5割の学生が看護師になることへの迷いを感じていた。将来の希望職種では、多重回答形式で求め、看護師が53人（65.5%）で最も多く、次いで保健師が11人（13.6%）、助産師が10人（12.3%）であった。取得したい資格では、多重回答形式で求め、看護師が59人（44.6%）で最も多く、次いで保健師が40人（30.3%）、助産師が17人（12.9%）であった。大学院への進学では、進学予定がないが38人（61.3%）で最も多く、次いで決めていないが16人（25.8%）であり、半数以上の学生が、現時点で大学院進学を考えていなかった。

実習後では、看護師になることへの迷いは、ややあるが25人（40.3%）で最も多く、次いであまりないが22人（35.5%）、多いにあるが8人（12.9%）で、実習前と同様に約5割の学生が看護師になることへの迷いを感じていた。将来の希望職種では、多重回答形式で求め、看護師が51人（56.8%）で最も多く、次いで保健師が20人（22.2%）、助産師が12人（13.3%）であった。取得したい資格では、多重回答形式で求め、看護師が60人（44.8%）で最も多く、次いで保健

表1. 対象者の背景

		n = 62 人 (%)	
項 目		実習前	実習後
性別	男	1 (1.6)	1 (1.6)
	女	61 (98.4)	61 (98.4)
平均年齢 (mean±SD歳)		19.9±0.3	19.9±0.3
入学動機	親族に看護師がいる	21 (33.8)	21 (33.8)
	親族に医療職がいる	5 (8.1)	5 (8.1)
	自分の入院経験	3 (4.8)	3 (4.8)
	親族の入院経験	16 (25.8)	16 (25.8)
	資格がとれる	5 (8.1)	5 (8.1)
	その他	12 (19.4)	12 (19.4)
看護師になることへの迷い	多いにある	7 (11.3)	8 (12.9)
	ややある	26 (42.0)	25 (40.3)
	あまりない	18 (29.0)	22 (35.5)
	全くない	10 (16.1)	6 (9.7)
	その他	1 (1.6)	1 (1.6)
将来の希望職種 (複数回答)	看護師	53 (65.5)	51 (56.8)
	保健師	11 (13.6)	20 (22.2)
	助産師	10 (12.3)	12 (13.3)
	研究者	1 (1.2)	2 (2.2)
	教育者	2 (2.5)	0 (0.0)
	医療職以外	2 (2.5)	3 (3.3)
	産業看護師	1 (1.2)	1 (1.1)
	その他	1 (1.2)	1 (1.1)
取得希望資格 (複数回答)	看護師	59 (44.6)	60 (44.8)
	保健師	40 (30.3)	39 (29.1)
	助産師	17 (12.9)	21 (15.7)
	認定看護師	8 (6.1)	5 (3.7)
	専門看護師	8 (6.1)	8 (6.0)
	その他	0 (0.0)	1 (0.7)
大学院への進学	卒業後すぐにする	2 (3.2)	5 (8.1)
	臨床に勤務後にする	5 (8.1)	6 (9.7)
	決めていない	16 (25.8)	16 (30.6)
	進学予定はない	38 (61.3)	32 (51.6)
	その他	1 (1.6)	0 (0.0)

師が39人(29.1%)、助産師が21人(15.7%)であった。大学院への進学では、進学予定がないが32人(51.6%)で最も多く、次いで決めていないが16人(30.6%)であり、実習前と同様の結果となった。

2. 思いやり行動評価の質問項目別度数分布 実習前後の思いやり行動評価の質問項目別度

数分布を表2に示した。思いやり行動評価の得点が高い「いつでもできる」と「かなりできる」の回答の二つを合わせた数についてみていく。実習前において最も多かった項目では、＜相手の立場に立つ＞は、Q14「人の気持ちを理解するように心がけている」48人(77.4%)であった。＜相手の態度表情を読み取る＞は、Q10「人の態度や表情を絶えず読み取ろうとする」48人

表2. 実習前後の思いやり行動評価の質問項目別度数分布

項目	< 実習前 >					< 実習後 >					n=62	人 (%)
	まったくできない	ほとんどできない	めったにしないがときどきやれる	かなりできる	いつもできる	まったくできない	ほとんどできない	めったにしないがときどきやれる	かなりできる	いつもできる		
相手の立場に立つ												
Q1. 自分ひとりのことより皆とどう生きるかを大切にしようとしている	1 (1.6)	4 (6.5)	23 (37.1)	31 (50.0)	3 (4.8)	1 (1.6)	7 (11.3)	17 (27.4)	31 (50.0)	6 (9.7)		
Q2. 話し合っているときは相手の立場に立とうとしている	0 (0.0)	4 (6.5)	13 (21.0)	37 (59.7)	8 (12.9)	0 (0.0)	3 (4.8)	14 (22.6)	33 (53.2)	12 (19.4)		
Q3. 相手が怒っているときにうまくなだめようとする	0 (0.0)	4 (6.5)	17 (27.4)	35 (56.5)	6 (9.7)	0 (0.0)	3 (4.8)	17 (27.4)	34 (54.8)	8 (12.9)		
Q5. 何かを決定するときには自分と反対の意見を持つ人たちの立場に立って考えようとする	1 (1.6)	5 (8.1)	25 (40.3)	26 (41.9)	5 (8.1)	1 (1.6)	5 (8.1)	18 (29.0)	32 (51.6)	6 (9.7)		
Q8. 友達をよく理解するために彼らの立場になって考える	0 (0.0)	6 (9.7)	14 (22.6)	34 (54.8)	8 (12.9)	1 (1.6)	3 (4.8)	15 (24.2)	32 (51.6)	11 (17.7)		
Q11. 人の考えを絶えず読み取ろうとしている	2 (3.2)	5 (8.1)	22 (35.5)	25 (40.3)	8 (12.9)	1 (1.6)	6 (9.7)	20 (32.3)	18 (29.0)	17 (27.4)		
Q12. どんな問題にも対立する二つの見方があると思うのでその両方を考慮するように努める	2 (3.2)	1 (1.6)	21 (33.9)	32 (51.6)	6 (9.7)	1 (1.6)	3 (4.8)	23 (37.1)	26 (41.9)	9 (14.5)		
Q14. 人の気持ちを理解するように心がけている	0 (0.0)	4 (6.5)	10 (16.1)	33 (53.2)	15 (24.2)	0 (0.0)	2 (3.2)	13 (21.0)	27 (43.5)	20 (32.3)		
Q15. ある人に気分を悪くされてもその人の立場に立ってみようとする	1 (1.6)	13 (21.0)	22 (35.5)	22 (35.5)	4 (6.5)	2 (3.2)	8 (12.9)	22 (35.5)	21 (33.9)	9 (14.5)		
Q17. 話し合っているとき相手の視線で物事を見るようにしている	0 (0.0)	3 (4.8)	21 (33.9)	32 (51.6)	6 (9.7)	0 (0.0)	5 (8.1)	24 (38.7)	26 (41.9)	7 (11.3)		
Q18. 人を批判する前にもし自分がその人であったらばどう思うであろうかと考える	0 (0.0)	9 (14.5)	19 (30.6)	27 (43.5)	7 (11.3)	1 (1.6)	9 (14.5)	18 (29.0)	24 (38.7)	10 (16.1)		
相手の態度表情を読み取る												
Q7. 人のちょっとした表情の変化でも見逃さない	1 (1.6)	10 (16.1)	21 (33.9)	22 (35.5)	8 (12.9)	2 (3.2)	5 (8.1)	20 (32.3)	24 (38.7)	11 (17.7)		
Q10. 人の態度や表情を絶えず読み取ろうとする	0 (0.0)	4 (6.5)	14 (22.6)	28 (45.2)	16 (25.8)	0 (0.0)	4 (6.5)	13 (21.0)	26 (41.9)	19 (30.6)		
Q13. 人のちょっとした気分の変化でも敏感に感じてしまう	2 (3.2)	1 (1.6)	17 (27.4)	28 (45.2)	14 (22.6)	0 (0.0)	5 (8.1)	17 (27.4)	26 (41.9)	14 (22.6)		
Q16. あなたの言っていることに相手がどのように反応しているか相手の表情などで気づこうとする	1 (1.6)	3 (4.8)	15 (24.2)	31 (50.0)	12 (19.4)	0 (0.0)	3 (4.8)	18 (29.0)	26 (41.9)	15 (24.2)		
相手の気持ちを察する												
Q4. 周囲の人の思いがはっきりしなくてその場にいたたまれなくなることもある	1 (1.6)	5 (8.1)	32 (51.6)	22 (35.5)	2 (3.2)	2 (3.2)	9 (14.5)	25 (40.3)	20 (32.3)	6 (9.7)		
Q6. 他人の心の動きを察することはかなり難しいことだと思う	1 (1.6)	5 (8.1)	21 (33.9)	25 (40.3)	10 (16.1)	2 (3.2)	8 (12.9)	20 (32.3)	23 (37.1)	9 (14.5)		
Q9. 人と感じ方がどこかに違いがあるように思える	1 (1.6)	4 (6.5)	22 (35.5)	29 (46.8)	6 (9.7)	1 (1.6)	7 (11.3)	20 (32.3)	27 (43.5)	7 (11.3)		

(77.4%)であった。〈相手の気持ちを察する〉は、Q9「人と感じ方がどこかに違いがあるように思える」35人(56.5%)であった。実習後において最も多かった項目では、〈相手の立場に立つ〉は、Q14「人の気持ちを理解するように心がけている」47人(75.8%)であった。〈相手の態度表情を読み取る〉は、Q10「人の態度や表情を絶えず読み取ろうとする」45人(72.5%)であった。〈相手の気持ちを察する〉は、Q9「人と感じ方がどこかに違いがあるように思える」34人(54.8%)であった。実習前には、「いつもできる」と「かなりできる」と回答した人が多かった項目については、実習後には回答者数にほとんど変わりはない。

実習前において最も少なかった項目では、〈相手の立場に立つ〉は、Q15「ある人に気分を悪くされてもその人の立場に立ってみようとする」26人(42.0%)であった。〈相手の態度表情を読み取る〉は、Q7「人のちょっとした表情の変化でも見逃さない」30人(48.4%)であった。〈相手の気持ちを察する〉は、Q4「周囲の思いがはっきりしなくてその場にいたたまれなくなることもある」24人(38.7%)であった。

実習後において最も少なかった項目では、〈相手の立場に立つ〉は、Q15「ある人に気分を悪くされてもその人の立場に立ってみようとする」30人(48.4%)であった。〈相手の態度表情を読み取る〉は、Q7「人のちょっとした表情の変化でも見逃さない」35人(56.4%)であった。〈相手の気持ちを察する〉は、Q4「周囲の思いがはっきりしなくてその場にいたたまれなくなることもある」26人(42.0%)であった。実習前に「いつもできる」と「かなりできる」と回答した人が少なかった項目については、実習後には回答者数が多くなった。

3. 実習前後における思いやり行動評価得点と因子別得点

思いやり行動評価の質問項目別の平均値(mean)と標準偏差(SD)、因子別得点の平均値と標準偏差、Wilcoxonの符号付順位和検定による結果を表3に示した。実習前では、〈相手の立場に立つ〉において最も得点が高かった項目は、Q14「人の気持ちを理解するように心がけている」平均4.0±0.8点であり、最も得点が低かった項目は、Q15「ある人に気分を悪く

表3. 実習前後の思いやり行動評価の質問項目別平均値(mean)と標準偏差(SD)

項目	n = 62		mean ± SD (点)	
	実習前	実習後	p値	検定
相手の立場に立つ				
Q1. 自分ひとりのことより皆とどう生きるかを大切にしている	3.5 ± 0.8	3.5 ± 0.9	0.80	
Q2. 話し合っているときは相手の立場に立とうとしている	3.8 ± 0.8	3.9 ± 0.8	0.50	
Q3. 相手が怒っているときにうまくだめようとする	3.7 ± 0.7	3.8 ± 0.7	0.56	
Q5. 何かを決定するときには自分と反対の意見を持つ人たちの立場に立って考えようとする	3.5 ± 0.8	3.6 ± 0.8	0.38	
Q8. 友達をよく理解するために彼らの立場になって考える	3.7 ± 0.8	3.8 ± 0.9	0.56	
Q11. 人の考えを絶えず読み取ろうとしている	3.5 ± 0.9	3.7 ± 1.0	0.34	
Q12. どんな問題にも対立する二つの見方があると思うのでその両方を考慮するように努める	3.6 ± 0.8	3.6 ± 0.9	0.77	
Q14. 人の気持ちを理解するように心がけている	4.0 ± 0.8	4.0 ± 0.8	0.55	
Q15. ある人に気分を悪くされてもその人の立場に立ってみようとする	3.2 ± 0.9	3.4 ± 1.0	0.34	
Q17. 話し合っているとき相手の視線で物事を見るようにしている	3.7 ± 0.7	3.6 ± 0.8	0.50	
Q18. 人を批判する前にも自分がその人であったらばどう思うであろうかと考える	3.5 ± 0.9	3.5 ± 1.0	0.87	
相手の立場に立つ合計得点	3.6 ± 0.6	3.7 ± 0.6	0.61	n. s.
相手の態度表情を読み取る				
Q7. 人のちょっとした表情の変化でも見逃さない	3.4 ± 1.0	3.6 ± 1.0	0.24	
Q10. 人の態度や表情を絶えず読み取ろうとする	3.9 ± 0.9	4.0 ± 0.9	0.58	
Q13. 人のちょっとした気分の变化でも敏感に感じてしまう	3.8 ± 0.9	3.8 ± 0.9	0.84	
Q16. あなたの言っていることに相手がどのように反応しているか相手の表情などで気づこうとする	3.8 ± 0.9	3.9 ± 0.8	0.81	
相手の態度表情を読み取る合計得点	3.8 ± 0.7	3.8 ± 0.7	0.66	n. s.
相手の気持ちを察する				
Q4. 周囲の人の思いがはっきりしなくてその場にいたたまれなくなることがある	3.3 ± 0.7	3.3 ± 1.0	0.92	
Q6. 他人の心の動きを察することはかなり難しいことだと思う	3.6 ± 0.9	3.5 ± 1.0	0.43	
Q9. 人と感じ方がどこかに違いがあるように思える	3.6 ± 0.8	3.5 ± 0.9	0.72	
相手の気持ちを察する合計得点	3.5 ± 0.5	3.4 ± 0.7	0.65	n. s.
思いやり行動評価総得点	3.6 ± 0.5	3.7 ± 0.6	0.67	n. s.

Wilcoxonの符号付順位和検定

n. s. : not significant

されてもその人の立場に立ってみようとする」平均3.2 ± 0.9点であった。＜相手の態度表情を読み取る＞において最も得点が高かった項目は、Q10「人の態度や表情を絶えず読み取ろうとする」平均3.9 ± 0.9点であり最も得点が低かった項目は、Q7「人のちょっとした表情の変化でも見逃さない」平均3.4 ± 1.0点であった。＜相手の気持ちを察する＞において最も得点が高かった項目は、Q6「他人の心の動きを察することはかなり難しいことだと思う」平均3.6 ± 0.9点とQ9「人と感じ方がどこかに違いがあるように思える」平均3.6 ± 0.8点であり、最も得点が低かった項目は、Q4「周囲の人の思いがはっきりしなくてその場にいたたまれなくなることがある」平均3.3 ± 0.7点であった。

実習後では、＜相手の立場に立つ＞において最も得点が高かった項目は、Q14「人の気持ちを理解するように心がけている」平均4.0 ± 0.8点であり、最も得点が低かった項目は、Q15「ある人に気分を悪くされてもその人の立場に立ってみようとする」平均3.4 ± 1.0点であった。＜相手の態度表情を読み取る＞において最も得点が高かった項目は、Q10「人の態度や表情を絶えず読み取ろうとする」平均4.0 ± 0.9点であり、最も得点が低かった項目は、Q7「人

のちょっとした表情の変化でも見逃さない」平均3.6 ± 1.0点であった。＜相手の気持ちを察する＞において最も得点が高かった項目は、Q6「他人の心の動きを察することはかなり難しいことだと思う」平均3.5 ± 1.0点とQ9「人と感じ方がどこかに違いがあるように思える」平均3.5 ± 0.9点であり、最も得点が低かった項目は、Q4「周囲の人の思いがはっきりしなくてその場にいたたまれなくなることがある」平均3.3 ± 1.0点であった。実習前後では、思いやり行動の得点にほとんど違いがなかった。

思いやり行動評価の因子別の合計得点の平均値は、実習前では、得点が高かった順にみると、＜相手の態度表情を読み取る＞平均3.8 ± 0.7点、＜相手の立場に立つ＞平均3.6 ± 0.6点、＜相手の気持ちを察する＞平均3.5 ± 0.5点であった。実習後では、得点が高かった順にみると、＜相手の態度表情を読み取る＞平均3.8 ± 0.7点、＜相手の立場に立つ＞平均3.7 ± 0.6点、＜相手の気持ちを察する＞平均3.4 ± 0.7点であった。実習後においても得点に大きな変化はなく、実習前と同様の順であった。思いやり行動評価総得点では、実習前平均3.6 ± 0.5点、実習後平均3.7 ± 0.6点で、大きな変化はなかった。思いやり行動評価総得点と3つの因子において、実習前

表4. 職業的アイデンティティの質問項目別度数分布

項目	＜ 実 習 前 ＞									＜ 実 習 後 ＞								
	全くあてはまらない	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	少しあてはまる	あてはまる	非常にあてはまる	全くあてはまらない	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	少しあてはまる	あてはまる	非常にあてはまる				
看護職の選択と成長への自信																		
Q1. 私は看護職になることが自分らしい生き方だと思う	5 (8.1)	2 (3.2)	4 (6.5)	18 (29.0)	13 (21.0)	13 (21.0)	7 (11.3)	5 (8.1)	5 (8.1)	4 (6.5)	18 (29.0)	16 (25.8)	7 (11.3)	7 (11.3)				
Q2. 私は看護職を生涯続けようと思う	2 (3.2)	4 (6.5)	9 (14.5)	14 (22.6)	11 (17.7)	13 (21.0)	9 (14.5)	4 (6.5)	5 (8.1)	6 (9.7)	18 (29.0)	15 (24.2)	10 (16.1)	4 (6.5)				
Q4. 私は看護職以外の仕事は考えられない	8 (12.9)	10 (16.1)	11 (17.7)	16 (25.8)	8 (12.9)	4 (6.5)	5 (8.1)	6 (9.7)	6 (9.7)	10 (16.1)	23 (37.1)	9 (14.5)	5 (8.1)	3 (4.8)				
Q5. 私は看護職を選択したことはよかったと思う	2 (3.2)	1 (1.6)	3 (4.8)	14 (22.6)	21 (33.9)	14 (22.6)	7 (11.3)	2 (3.2)	2 (3.2)	8 (12.9)	20 (32.3)	12 (19.4)	10 (16.1)	8 (12.9)				
Q13. 私は看護職を志す学生であると他人に誇りをもって言うことができる	2 (3.2)	2 (3.2)	2 (3.2)	16 (25.8)	16 (25.8)	13 (21.0)	11 (17.7)	3 (4.8)	2 (3.2)	6 (9.7)	18 (29.0)	17 (27.4)	10 (16.1)	6 (9.7)				
看護職観の確立																		
Q3. 私は看護職のあり方について自分なりの考えを持っている	2 (3.2)	4 (6.5)	6 (9.7)	18 (29.0)	16 (25.8)	15 (24.2)	1 (1.6)	1 (1.6)	5 (8.1)	7 (11.3)	17 (27.4)	19 (30.6)	11 (17.7)	2 (3.2)				
Q9. 自分がどんな看護者になりたいかはっきりしている	3 (4.8)	4 (6.5)	6 (9.7)	20 (32.3)	12 (19.4)	11 (17.7)	6 (9.7)	6 (9.7)	6 (9.7)	4 (6.5)	16 (25.8)	19 (30.6)	9 (14.5)	2 (3.2)				
Q11. 自分がどんな看護をしたいかははっきりしている	6 (9.7)	3 (4.8)	4 (6.5)	23 (37.1)	12 (19.4)	10 (16.1)	4 (6.5)	3 (4.8)	3 (4.8)	8 (12.9)	18 (29.0)	19 (30.6)	8 (12.9)	3 (4.8)				
Q16. 私は自分らしい看護をしていくことができると思う	3 (4.8)	1 (1.6)	7 (11.3)	23 (37.1)	12 (19.4)	11 (17.7)	5 (8.1)	4 (6.5)	2 (3.2)	5 (8.1)	18 (29.0)	20 (32.3)	8 (12.9)	5 (8.1)				
Q18. 将来自分らしい看護ができるようになると思う	4 (6.5)	1 (1.6)	1 (1.6)	23 (37.1)	18 (29.0)	10 (16.1)	5 (8.1)	2 (3.2)	2 (3.2)	7 (11.3)	19 (30.6)	17 (27.4)	9 (14.5)	6 (9.7)				
看護職として必要とされることへの自負																		
Q12. 私は看護職としてこれまでもこれから多くの人に必要とされていると思う	3 (4.8)	2 (3.2)	4 (6.5)	23 (37.1)	19 (30.6)	7 (11.3)	4 (6.5)	3 (4.8)	3 (4.8)	7 (11.3)	20 (32.3)	14 (22.6)	10 (16.1)	5 (8.1)				
Q15. 私は看護師として医療チームの一員として今後ますます必要とされると思う	2 (3.2)	0 (0.0)	6 (9.7)	21 (33.9)	14 (22.6)	11 (17.7)	8 (12.9)	2 (3.2)	4 (6.5)	7 (11.3)	21 (33.9)	14 (22.6)	9 (14.5)	5 (8.1)				
Q17. 私は看護者として患者に必要とされていると思う	3 (4.8)	2 (3.2)	5 (8.1)	26 (41.9)	17 (27.4)	7 (11.3)	2 (3.2)	3 (4.8)	3 (4.8)	7 (11.3)	18 (29.0)	19 (30.6)	8 (12.9)	4 (6.5)				
Q19. 私は看護師として背景に独自の学問体系をもっている	4 (6.5)	6 (9.7)	13 (21.0)	26 (41.9)	6 (9.7)	7 (11.3)	0 (0.0)	3 (4.8)	6 (9.7)	7 (11.3)	25 (40.3)	14 (22.6)	4 (6.5)	3 (4.8)				
Q20. 私は看護職として医療の世界で不可欠な存在であると思っている	5 (8.1)	3 (4.8)	9 (14.5)	21 (33.9)	13 (21.0)	10 (16.1)	1 (1.6)	3 (4.8)	9 (14.5)	5 (8.1)	18 (29.0)	15 (24.2)	7 (11.3)	5 (8.1)				
社会貢献への志向																		
Q6. 私は看護職として看護の世界の発展に貢献していきたい	2 (3.2)	2 (3.2)	4 (6.5)	18 (29.0)	17 (27.4)	16 (25.8)	3 (4.8)	4 (6.5)	3 (4.8)	8 (12.9)	18 (29.0)	14 (22.6)	8 (12.9)	7 (11.3)				
Q7. 私は看護職として社会に貢献していきたい	0 (0.0)	2 (3.2)	2 (3.2)	9 (14.5)	25 (40.3)	17 (27.4)	7 (11.3)	2 (3.2)	5 (8.1)	2 (3.2)	14 (22.6)	18 (29.0)	12 (19.4)	9 (14.5)				
Q8. 私は看護職として患者の願いに応えたいと思っている	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.2)	3 (4.8)	17 (27.4)	29 (46.8)	11 (17.7)	1 (1.6)	3 (4.8)	4 (6.5)	13 (21.0)	15 (24.2)	14 (22.6)	12 (19.4)				
Q10. 私は看護職として医療の発展に貢献していきたい	1 (1.6)	3 (4.8)	4 (6.5)	14 (22.6)	21 (33.9)	14 (22.6)	5 (8.1)	4 (6.5)	3 (4.8)	4 (6.5)	17 (27.4)	17 (27.4)	9 (14.5)	8 (12.9)				
Q14. 私は看護職として患者に貢献していきたい	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	8 (12.9)	19 (30.6)	24 (38.7)	10 (16.1)	2 (3.2)	3 (4.8)	5 (8.1)	11 (17.7)	14 (22.6)	16 (25.8)	11 (17.7)				

後では有意差はみられなかった。

4. 職業的アイデンティティの質問項目別度数分布
 実習前後の職業的アイデンティティの質問項目別度数分布を表4に示した。職業的アイデンティティの配点が高い「非常にあてはまる」、「あてはまる」と「少しあてはまる」の回答の三つを合わせた数についてみていく。実習前において最も多かった項目では、＜看護職の選択と成長への自信＞は、Q5「私は看護職を選択したことはよかったと思う」42人(67.8%)であった。＜看護職観の確立＞は、Q18「将来自分らしい看護ができるようになると思う」33人(53.2%)であった。＜看護職として必要とされることへの自負＞は、Q15「私は看護師として医療チームの一員として今後ますます必要とされると思う」33人(53.2%)であった。＜社会への貢献の志向＞は、Q8「私は看護職として患者の願いに応えたいと思っている」57人(91.9%)であった。すなわち、看護職に対する考えや価値観(医療のあり方についての自分自身の考えや価値観)をもっている学生は約5割で、患者の願い

に応えたいという志向をもっている学生は9割以上みられた。

実習後において最も多かった項目では、＜看護職の選択と成長への自信＞は、Q13「私は看護職を志す学生であると他人に誇りをもって言うことができる」33人(53.2%)であった。＜看護職観の確立＞は、Q16「私は自分らしい看護をしていくことができると思う」33人(53.3%)であった。＜看護職として必要とされることへの自負＞は、Q17「私は看護者として患者に必要とされていると思う」31人(50.0%)であった。＜社会への貢献の志向＞は、Q7「私は看護職として社会に貢献していきたい」39人(62.9%)であった。すなわち、看護職に対する考えや価値観をもっている学生は約5割で実習後に変化はなく、社会に貢献していきたいという志向をもっている学生が約5割であった。

5. 実習前後における職業的アイデンティティ得点と因子別得点

職業的アイデンティティの質問項目別の平均値(mean)と標準偏差(SD)、因子別得点の

表5. 実習前後の職業的アイデンティティの質問項目別平均値(mean)と標準偏差(SD)

項目	n=62		p値	検定
	実習前	実習後		
看護職の選択と成長への自信				
Q1. 私は看護職になることが自分らしい生き方だと思う	4.6 ± 1.6	4.4 ± 1.7	0.35	
Q2. 私は看護職を生涯続けようと思う	4.7 ± 1.6	4.3 ± 1.6	0.18	
Q4. 私は看護職以外の仕事は考えられない	3.6 ± 1.7	3.8 ± 1.5	0.38	
Q5. 私は看護職を選択したことはよかったと思う	5.0 ± 1.3	4.6 ± 1.5	0.17	
Q13. 私は看護職を志す学生であると他人に誇りをもって言うことができる	5.0 ± 1.5	4.6 ± 1.5	0.05	
看護職の選択と成長への自信合計得点	4.6 ± 1.3	4.3 ± 1.3	0.22	n. s.
看護職観の確立				
Q3. 私は看護職のあり方について自分なりの考えを持っている	4.5 ± 1.4	4.4 ± 1.3	0.96	
Q9. 自分がどんな看護者になりたいかはっきりしている	4.5 ± 1.5	4.1 ± 1.6	0.25	
Q11. 自分がどんな看護をしたいかはっきりしている	4.3 ± 1.6	4.3 ± 1.6	0.83	
Q16. 私は自分らしい看護をしていくことができると思う	4.5 ± 1.4	4.5 ± 1.5	0.93	
Q18. 将来自分らしい看護ができるようになると思う	4.6 ± 1.4	4.6 ± 1.4	0.83	
看護職観の確立合計得点	4.5 ± 1.3	4.4 ± 1.3	0.86	n. s.
看護職として必要とされることへの自負				
Q12. 私は看護職としてこれまでもこれからも多くの人に必要とされていると思う	4.5 ± 1.3	4.4 ± 1.5	0.98	
Q15. 私は看護師として医療チームの一員として今後ますます必要とされると思う	4.8 ± 1.4	4.4 ± 1.4	0.15	
Q17. 私は看護者として患者に必要とされていると思う	4.3 ± 1.3	4.4 ± 1.4	0.60	
Q19. 私は看護師として背景に独自の学問体系をもっている	3.7 ± 1.3	4.0 ± 1.4	0.16	
Q20. 私は看護職として医療の世界で不可欠な存在であると思っている	4.1 ± 1.4	4.2 ± 1.6	0.53	
看護職として必要とされることへの自負合計得点	4.3 ± 1.1	4.3 ± 1.3	0.96	n. s.
社会貢献への志向				
Q6. 私は看護職として看護の世界の発展に貢献していきたい	4.7 ± 1.3	4.4 ± 1.6	0.18	
Q7. 私は看護職として社会に貢献していきたい	5.2 ± 1.1	4.8 ± 1.5	0.12	
Q8. 私は看護職として患者の願いに応えたいと思っている	5.7 ± 0.9	5.1 ± 1.5	0.02	
Q10. 私は看護職として医療の発展に貢献していきたい	4.8 ± 1.3	4.6 ± 1.6	0.39	
Q14. 私は看護職として患者に貢献していきたい	5.5 ± 1.0	5.0 ± 1.6	0.01	
社会貢献への志向合計得点	5.2 ± 0.9	4.8 ± 1.4	0.05	*
職業的アイデンティティ総得点				
	4.6 ± 1.0	4.5 ± 1.2	0.35	n. s.

Wilcoxonの符号付順位和検定

n. s. : not significant * p : <0.05

平均値と標準偏差, Wilcoxonの符号付順位和検定による結果を表5に示した。実習前では、〈看護職の選択と成長への自信〉において最も得点が高かった項目は、Q13「私は看護職を志す学生であると他人に誇りをもって言うことができる」平均5.0 ± 1.5点とQ5「私は看護職を選択したことはよかったと思う」平均5.0 ± 1.3点であり、最も得点が低かった項目は、Q4「私は看護職以外の仕事は考えられない」平均3.6 ± 1.7点であった。〈看護職観の確立〉において最も得点が高かった項目は、Q18「将来自分らしい看護ができるようになると思う」平均4.6 ± 1.4点であり、最も得点が低かった項目は、Q11「自分がどんな看護をしたいかはっきりしている」平均4.3 ± 1.6点であった。〈看護職として必要とされることへの自負〉において最も得点が高かった項目は、Q15「私は看護師として医療チームの一員として今後ますます必要とされると思う」平均4.8 ± 1.4点であり、最も得点が低かった項目は、Q19「私は看護師として背景に独自の学問体系をもっている」平均3.7 ± 1.3点であった。〈社会への貢献の志向〉において最も得点が高かった項目は、Q8「私は看護職

として患者の願いに応えたいと思っている」平均5.7 ± 0.9点であり、最も得点が低かった項目は、Q6「私は看護職として看護の世界の発展に貢献していきたい」平均4.7 ± 1.3点であった。

実習後では、〈看護職の選択と成長への自信〉において最も得点が高かった項目は、Q5「私は看護職を選択したことはよかったと思う」、Q13「私は看護職を志す学生であると他人に誇りをもって言うことができる」がともに平均4.6 ± 1.5点であり、最も得点が低かった項目は、Q4「私は看護職以外の仕事は考えられない」平均3.8 ± 1.5点であった。〈看護職観の確立〉において最も得点が高かった項目は、Q18「将来自分らしい看護ができるようになると思う」平均4.6 ± 1.4点であり、最も得点が低かった項目は、Q9「自分がどんな看護者になりたいかはっきりしている」平均4.1 ± 1.6点であった。〈看護職として必要とされることへの自負〉において最も得点が高かった項目は、Q12「私は看護職としてこれまでもこれからも多くの人に必要とされていると思う」平均4.4 ± 1.5点とQ15「私は看護師として医療チームの一員として今後ますます必要とされると思う」、Q17「私

表6. 実習前後の思いやり行動評価と職業的アイデンティティとの相関係数

	思いやり行動評価	思いやり行動評価				職業的アイデンティティ				
		相手の立場に立つ	相手の態度表情を読み取る	相手の気持ちを察する	総得点	看護師選択への自信	自分の看護観の確立	看護師として必要とされることへの自負	社会貢献への志向	総得点
〔実習前〕	相手の立場に立つ	1								
	相手の態度表情を読み取る	0.64*	1							
	相手の気持ちを察する	-0.11	-0.08	1						
	総得点	0.94*	0.81*	0.07	1					
	職業的アイデンティティ	0.44*	0.43*	-0.03	0.47*	1				
〔実習後〕	相手の立場に立つ	1								
	相手の態度表情を読み取る	0.81*	1							
	相手の気持ちを察する	0.35*	0.37*	1						
	総得点	0.96*	0.88*	0.52*	1					
	職業的アイデンティティ	0.44*	0.35*	-0.02	0.38*	1				
〔実習前〕	看護師選択への自信	0.44*	0.43*	-0.03	0.47*	1				
	自分の看護観の確立	0.60*	0.56*	0.01	0.65*	0.78*	1			
	看護師として必要とされることへの自負	0.48*	0.53*	0.09	0.57*	0.74*	0.75*	1		
	社会貢献への志向	0.48*	0.51*	-0.03	0.53*	0.83*	0.71*	0.62*	1	
	総得点	0.56	0.56*	0.01	0.62*	0.94*	0.92*	0.85*	0.87*	1
〔実習後〕	看護師選択への自信	0.44*	0.35*	-0.02	0.38*	1				
	自分の看護観の確立	0.60*	0.52*	0.10	0.58*	0.78*	1			
	看護師として必要とされることへの自負	0.48*	0.46*	0.07	0.46*	0.83*	0.79*	1		
	社会貢献への志向	0.56*	0.50*	0.03	0.52*	0.80*	0.80*	0.78*	1	
	総得点	0.57*	0.51*	0.03	0.53*	0.93*	0.91*	0.92*	0.91*	1

Spearmanの順位相関係数

*: p<0.01

は看護者として患者に必要とされていると思う」がともに平均4.4 ± 1.4点であり、最も得点が低かった項目は、Q19「私は看護師として背景に独自の学問体系をもっている」平均4.0 ± 1.4点であった。〈社会への貢献の志向〉において最も得点が高かった項目は、Q8「私は看護職として患者の願いに応えたいと思っている」平均5.1 ± 1.5点であり、最も得点が低かった項目は、Q6「私は看護職として看護の世界の発展に貢献していきたい」平均4.4 ± 1.6点であった。職業的アイデンティティの得点は、実習後に低下する傾向にあった。職業的アイデンティティの因子別の合計得点の平均値をみると、実習前では、得点が高かった順に、〈社会への貢献の志向〉平均5.2 ± 0.9点、〈看護職の選択と成長への自信〉平均4.6 ± 1.3点、〈看護観の確立〉平均4.5 ± 1.3点、〈看護職として必要とされることへの自負〉平均4.3 ± 1.1点であった。実習後では、得点が高かった順に、〈社会への貢献の志向〉平均4.8 ± 1.4点、〈看護観の確立〉平均4.4 ± 1.3点、〈看護職の選択と成長への自信〉、〈看護職として必要とされることへの自負〉がともに平均4.3 ± 1.3点であった。最も

得点が高かったのは、実習前後ともに〈社会への貢献の志向〉であり、得点は実習後に低下する傾向にあった。職業的アイデンティティ総得点では、実習前平均4.6 ± 1.0点、実習後平均4.5 ± 1.2点で大きな変化はなかった。総得点において、実習前後では有意差はみられなかったが、下位因子の〈社会への貢献の志向〉において、実習前より実習後のほうが有意 (p<0.05) に下がっていた。

6. 思いやり行動評価と職業的アイデンティティとの相関

思いやり行動評価と職業的アイデンティティとの相関を表6に示した。実習前において、思いやり行動評価総得点、各因子の〈相手の立場に立つ〉、〈相手の態度表情を読み取る〉と、職業的アイデンティティ総得点、各因子の〈看護師選択への自信〉、〈自分の看護観の確立〉、〈看護師として必要とされることへの自負〉、〈社会への貢献の志向〉との間で正の相関 (p<0.01) がみられた。思いやり行動評価の因子〈相手の気持ちを察する〉と職業的アイデンティティ総得点、各因子の〈看護師選択への自信〉、〈自分の看護観の確立〉、〈看護師とし

て必要とされることへの自負>、<社会への貢献の志向>には相関がみられなかった。

実習後において、思いやり行動評価総得点、各因子の<相手の立場に立つ>、<相手の態度表情を読み取る>と、職業的アイデンティティ総得点、各因子の<看護師選択への自信>、<自分の看護観の確立>、<看護師として必要とされることへの自負>、<社会への貢献の志向>との間と、思いやり行動評価総得点、各因子の<相手の立場に立つ>、<相手の態度表情を読み取る>、と<相手の気持ちを察する>との間で正の相関 ($p<0.01$) がみられた。思いやり行動評価の因子<相手の気持ちを察する>と職業的アイデンティティ総得点、各因子の<看護師選択への自信>、<自分の看護観の確立>、<看護師として必要とされることへの自負>、<社会への貢献の志向>には相関がみられなかった。

実習前後ともに、思いやり行動評価総得点と職業的アイデンティティ総得点で正の相関 (実習前 $r=.62$, 実習後 $r=.53$, $p<.01$) がみられた。

V 考察

基礎看護学実習Ⅱ前後における看護学生の思いやり行動と看護職アイデンティティの変化、および関連について明らかにすることを目的として検討した。

1. 思いやり行動の実習前後の変化

思いやり行動評価の質問項目の中で、「できる」と回答した人が最も多かった項目Q9「人と感じ方がどこかに違いがあるように思える」、Q10「人の態度や表情を絶えず読み取ろうとする」とQ14「人の気持ちを理解するように心がけている」は、実習前後で「できる」と回答した者に変化はなく、最も少なかった項目Q4「周囲の思いがはっきりしなくてその場にいたたまれなくなることがある」、Q7「人のちょっとした表情の変化でも見逃さない」とQ15「ある人に気分を悪くされてもその人の立場に立ってみようとする」は、実習後に「できる」と回答した者が増えた。実習前から思いやり行動がとれると思っていた学生は、実習後もその思いを維持することが出来、実習前に思いやり行動をと

ることが難しいと感じていた学生は、実習により、思いやり行動がとれるようになったのではないかと考える。嘉屋²¹⁾は、思いやりは対人関係において成り立つものであり、看護学生は多くの経験をする臨地実習場面において育成すると述べていることから、本調査においても学生は、実習において思いやりを育成することができたのではないかと考える。したがって、質問項目ではあるが、「できる」と回答した学生が増えたことから、基礎看護学実習Ⅱによる影響が推察できる。

思いやり行動評価の因子<相手の立場に立つ>とは、相手の立場・視点に立ち、相手の理解に努める行動のことであり、<相手の態度表情をよみとる>とは、相手の態度や表情に気を配り、相手の理解に努める行動のことである。また、<相手の気持ちを察する>とは、相手の心の動きに敏感に反応すること²²⁾である。一戸²³⁾は、看護の思いやり行動とは、看護の対象となる人に思いをやることであり、その思いをやる時には、専門的知識を駆使して相手の状況を的確に判断し、そして、相手の立場に立って、相手に共感し、相手に役立つことの思いを遣わす有意行動であると述べている。本調査の結果では、実習前後ともに最も高かったのは<相手の態度表情をよみとる>で、最も低かったのは<相手の気持ちを察する>であったことから、学生は、患者の気持ちを察するといった心の動きに反応するにとどまらず、患者の態度表情を読み取り、患者の理解に努める行動をとることに重要性を感じていたことを表しているのではないかと考える。

2. 職業的アイデンティティの実習前後の変化

看護学生の職業的アイデンティティ得点では、実習前より実習後に低下する傾向にあった。A.S.Hinsahw²⁴⁾は、看護師の職業的社会的モデルについては以下の6段階を示している。第1段階：初期の清純さ（現実に影響されない看護のイメージ）、第2段階：不一致（現実とは違うのだということに気づき緊張とフラストレーションを生ずる）、第3段階：同一視（教師や

看護師を役割モデルとしてそれと同一視する)、第4段階:役割シミュレーション(役割モデルにあわせて役割をシミュレーションする)、第5段階:揺らぎ(新しい看護師のイメージと古いイメージの間に緊張が生ずる)、第6段階:内在化(新しい役割に適應する)で、このうち第4段階までを学生のうちに経験するとしている。実習前の学生の状態は第1段階に相当し、看護師になることを目指して看護大学に入学し、専門的な学習を重ね、高い看護職アイデンティティをもっていたのではないかと考える。そして、臨地実習を通して直に患者に接することで現実の厳しさに直面し、第2段階をむかえ、学内での学習と現実との違いから職業的アイデンティティが低下したのではないかと考える。青年期は、社会的役割実験が行われる中でアイデンティティを達成し、確立してく時期である²⁵⁾ことから、看護学生の職業的アイデンティティは変化する可能性があり、今後さらに検討していく必要があると考える。

<社会への貢献の志向>において、実習前より実習後のほうが有意に下がっていた。古宇田²⁶⁾は、学生は、目に見える看護活動や看護技術の手技を学ぶことはできても、看護観のように目には見えないものについて学習をすることは難しいと述べている。学生は実習において、実際に患者に接し看護を行うことで、患者の願いやニーズに応え、看護職として患者や看護に貢献していくことの難しさを直に体験したため、<社会への貢献の志向>(患者の願いに応え、患者や医療に貢献していきたいという志向性)が有意に下がったのではないかと考える。

3. 思いやり行動評価と職業的アイデンティティとの関連

実習前後ともに思いやり行動評価の因子<相手の気持ちを察する>と職業的アイデンティティとの間で相関がみられなかった。<相手の気持ちを察する>とは、相手の心の動きに敏感に反応することとしていることから、患者の気持ちに反応するだけでは、自分は看護職であるという思いにつながらないことが推察された。

実習前後ともに、思いやり行動と職業的アイデンティティで正の相関があったことから、思いやり行動がとれる学生は、看護職アイデンティティが高いことが明らかとなった。従って教員は、学生が思いやり行動をとることが出来るように関わるのが、今後の課題となるのではないかと考える。菊池²⁷⁾は、思いやり行動が出るには、「気づき」「意思決定」「行動」という流れがあり、「気づき」と「意思決定」をつなぐ媒介過程として、共感性、向社会的判断、役割取得がある。相手が援助を必要としていることに気づくことは思いやり行動の始まりになり、諸事情を考慮して思いやり行動をとることを決定しなければならないと述べている。看護においても、患者のニーズに気づき理解するように努め、専門的知識をもって援助が必要か否かの判断をし、患者の立場に立って考え、個性をふまえた看護を提供することが求められる。これは、思いやり行動と類似した過程であり、思いやり行動をとれることは、看護師を自分の職業であるとする主観的な感覚に自信をもてるようにはたらくのではないかと考える。

VI 結論

1. 思いやり行動で、実習前は「できる」と回答した者が少なかった質問項目について、実習後は「できる」と回答した者が多くなる傾向があったことから、基礎看護学実習Ⅱによる影響が推察できる。
2. 職業的アイデンティティは、実習により現実の厳しさを体験したことで、実習後に低下する傾向があったのではないかと考える。
3. 実習前後ともに、思いやり行動と職業的アイデンティティで正の相関があったことから、思いやり行動がとれる学生は、職業的アイデンティティが高いことが示唆された。

【 引用文献 】

- 1) 田島桂子:看護実践能力に向けた教育の基礎,医学書院,2002.
- 2) 森下節子,小池妙子他:態度教育の研究(2),年齢,経験と共に発展する態度意識,看護

- 展望 17(3), p62-67, 1992.
- 3) 古川直美, 小野幸子他: 一般病棟における看護師の対応に対する患者と家族の満足度—第一報—, 岐阜県立看護大学紀要 4(1), p59-64, 2004.
 - 4) 北村満代: 看護処置における患者の対人認知とストレス各制度の変化—ラザルスの理論による—, 日本看護研究学会雑誌 21(2), p7-17, 1998.
 - 5) 前掲 2)
 - 6) 新村出: 広辞苑(第5版), 岩波書店, 1998.
 - 7) 菊池章夫: 思いやりを科学する 向社会的行動の心理とスキル, 川島書店, 1988.
 - 8) 菊池章夫: 思いやり測る, ころの科学(8), p22-27, 1986.
 - 9) 内山久美, 大澤早苗他: 職業的社会的科と看護学生の意識—オープンキャンパス参加者の声と入学後の「看護イメージ」から—, 保健科学研究誌 2, p79-85, 2005.
 - 10) 鎌幹八郎: アイデンティティとライフサイクル論, ナカニシヤ書店, 2002.
 - 11) 佐藤栄子: 中範囲理論入門, 日総研出版, 2010.
 - 12) 山内栄子, 松本葉子他: 現代の看護系大学生の学生生活における職業的アイデンティティの形成過程, 日本看護学教育学会誌, 18(3), p11-23, 2009.
 - 13) 落合幸子, 紙屋克子他: エキスパート・モデルが看護学生の職業的アイデンティティに及ぼす影響—自己効力感・評価懸念との関連からみた効果—, 茨城県立医療大学紀要 11, p71-78, 2006.
 - 14) 波多野梗子, 小野寺杜紀他: 看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化, 日本看護研究学会雑誌 16(4), p21-28, 1993.
 - 15) 古宇田美美, 大黒理恵他: 早期体験実習が看護学生の職業的アイデンティティ形成に及ぼす効果, お茶の水看護学雑誌 4(1), p15-21, 2009.
 - 16) 尾原喜美子: 学習進度に伴う看護学生の思いやり行動の変化—作成した思いやり行動尺度を使用して—, 日本看護学教育学会誌 15(1), p59-71, 2005.
 - 17) 前掲 16)
 - 18) Erikson, E.H. (1959), 小此木啓吾他訳: 自我同一性, 誠信書房, 1973.
 - 19) 前掲 16)
 - 20) 藤井恭子, 野々村典子他: 医療系学生における職業的アイデンティティの分析, 茨城県立医療大学紀要 7, p131-142, 2002.
 - 21) 嘉屋優子: 優しさ・思いやりをどう育成するか, 看護教育 35(5), p395-399, 1994.
 - 22) 前掲 16)
 - 23) 一戸妙子, 川合育子他: 看護の思いやり行動モデルの作成, 看護教育 36(5), p400-404, 1995.
 - 24) A.S.Hinshaw: Socialization and Resocialization of Nurses for professional Nursing Practice, 1981.
 - 25) 前掲 10)
 - 26) 前掲 15)
 - 27) 前掲 7)